

コイヘルペスウイルス病の診断・防疫技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 水産総合研究センター養殖研究所 三輪 理

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

コイヘルペスウイルス (KHV) 病は、我が国においては 2003 年秋に初めて発生が確認されて以来、養殖・天然を問わずコイに大きな被害をもたらしており、その対策が強く求められている。しかし本疾病は世界的にも報告されてから日が浅く、未だ対策技術が確立されていない。このため本研究において、本疾病の診断、防疫技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 病理学及び疫学的検討 (日本獣医畜産大学、(独) 養殖研究所、東南アジア漁業開発センター)

病理学的に本疾病の死因を解明するとともに不顕性感染魚や他魚種の KHV への感受性を調べる。また各地のウイルス株の違いを調べ伝播経路の疫学的検討を行う。

② 新たな診断・検出法の開発 ((独) 養殖研究所、栄研化学 (株))

現行の診断法より迅速・簡単で高感度な KHV の検出法、あるいは感度は劣るが確実な診断法を開発する。

③ 防疫対策技術の開発 (北海道大学、共立製薬 (株)、東京海洋大学)

KHV の効果的な消毒法を確立し、予防のためのワクチン開発を行う。さらに発症したコイの治療法を開発を目指す。

5 目標とする成果

コイヘルペスウイルス病の伝播様式が明らかになり、より速やかに確実な診断が可能になる。さらに消毒法、ワクチン技術、治療技術が確立される。これらにより、KHV を広める危険性のあるコイを速やかに判定することで、疾病の拡大を防ぎ、適切な防疫によって疾病の発生を抑制し、かつ価値のある個体を治療できるようになることが期待される。